令和5・6年度 第1回高崎市公民館運営審議会 会議録

開催日時 令和5年8月30日（水）午後1時30分から3時25分

開催場所 高崎市下里見公民館 集会ホール

議題 公民館運営審議会長、副会長の選出について
高崎市公民館運営審議会について
下里見公民館の取り組みについて

公開・非公開区分 公開

出席委員（14人）

原徳応委員 ・ 串田昭光委員 ・ 三澤憲一委員 ・ 小屋美香委員
青柳隆委員 ・ 小見勝栄委員 ・ 植原孝行委員 ・ 原田和之委員
山口堅二委員 ・ 秋山美和子委員 ・ 上條ちづ子委員 ・ 品田佳江委員
井澤千代美委員 ・ 岡部敬子委員

欠席委員（6人）

前島朗委員 ・ 星野雅代委員 ・ 小高広大委員 ・ 内田祥子委員
櫻井登委員 ・ 丸茂ひろみ委員 ・

成立 高崎市公民館運営審議会規則 第4条第2項による

事務局出席者

山口順子中央公民館長・川嶋昭人公民館担当部長 齋藤崇夫教育担当係長
錦部光樹次長・千保木優次長・大村政彦次長・外處浩則次長・平石貴文次長
伊藤俊一郎次長・武政文隆次長・貫井賀津夫次長・木村智美主査・菅野典子
行政囑託

傍聴定員 5人

傍聴者数 0人

所管部課名 教育部高崎市中央公民館

令和5・6年度 第1回高崎市公民館運営審議会 議事録

議事

1 公民館運営審議会長、副会長の選出について

事務局： 議事に入らせていただきます。

(1) 会長、副会長の選出について、お配りしてある「公民館運営審議会について」という資料の最後のページの裏面をご覧ください。高崎市公民館館運営審議会規則第2条第1項に「審議会に会長及び副会長1名を置き、委員の互選によりこれを定める」とあります。また、第4条第1項に「審議会の会議は会長が招集し、会長は会議の議長となる」とございます。これから会長、副会長を選出していただきますが、本日は第1回の会議ですのでそれまでの間、中央公民館長が仮の議長として進めさせていただきたいと思いますが、皆様よろしいでしょうか。

【意義なしの声有り】

それでは、山口館長、よろしく願いいたします。

中央公民館長： 会長が選出されるまでの間、暫時議事の進行を務めさせていただきます。議事の「公民館運営審議会長、副会長の選出」を行わせていただきます。

今、事務局から説明がありましたとおり、会長、副会長の選出は委員の互選によることとなっております。委員の皆さまのご意見はいかがでしょうか。

【事務局案があれば提案の声有り】

そうしましたら、事務局案を提案させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【異議なしの声有り】

中央公民館長： それでは事務局案をお願いします。

事務局： 事務局案といたしまして、会長に串田委員、副会長に秋山委員を提案させていただきます。

串田委員は、高崎ユネスコ協会の会長で、審議会の委員を2期4年努めており、前期は専門委員も務めていただきました。また、秋山委員は、審議会の委員を1期2年努めており、前期は公募でしたが、今期は群馬地区選出の委員となります。串田委員と同じく前期は専門委員も務めております。また、生涯学習推進員、運営推進委員として堤ヶ岡公民館の公民館活動にも日頃からご協力いただいております。

事務局案は以上です。よろしくお願いいたします。

中央公民館長： 今、事務局から会長を串田委員、副会長を秋山委員にお願いしたいとの提案がありましたが、いかがでしょうか。ご承認いただける方は拍手をお願いいたします。

【一同、拍手で承認】

中央公民館長： ありがとうございます。皆様の拍手をもちまして承認いただいたものとします。会長に串田委員、副会長に秋山委員が選出されました。

それでは、串田委員、秋山委員は会長席、副会長席へお移りください。

就任にあたり、串田委員、秋山委員にご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【会長、副会長挨拶】

中央公民館長： ありがとうございます。これより串田会長には、審議会規則第4条第1項により、進行をお願いいたします。

会長： それでは審議に入りたいと思います。議事の(2)公民館運営審議会について、事務局より説明をよろしくお願いいたします。

2 高崎市公民館運営審議会について

事務局： お手元の「高崎市公民館運営審議会について」というホチキス止めの資料をご覧ください。初めての会議ですので公民館運営審議会の概要について簡単にご説明させていただきます。

まず、公民館運営審議会の概要ですが、公民館運営審議会の設置については、

社会教育法第29条で「置くことができる」とされております。それを受けて高崎市公民館条例第10条で設置することを定めています。

審議会の役割につきましては、社会教育法第29条の2にございますとおり「公民館運営審議会は、高崎市公民館連絡協議会（いわゆる館長会）の諮問に応じ、公民館における各種の事業の企画実施につき調査審議するもとする」ということが役割となっております。また、それに加えて、公民館運営審議会規則第5条にございますが、「館長の任命に関し、あらかじめ教育委員会の求めに応じ、意見を述べるもとする」ということで、中央、箕郷、倉渕、榛名、吉井、新町の6館の常勤職員の館長を除く、39館の非常勤の地区推薦の館長の任命に関して、意見をいただくということが役割となっております。

運営につきましては、高崎市公民館運営審議会規則に定められておりますが、先ほどもご説明したように、会長、副会長をおき、審議会の会議は会長が招集し、会議の議長となるとされております。また、答申・提言の作成などの必要に応じて専門委員会を設けることができるとされております。通常ですと2年任期の2年目に専門委員会を設置し、答申を作成していただく流れとなります。

次に2ページをご覧ください。高崎市公民館運営審議会が設置されてから昨年度までの答申・提言のタイトルの一覧となっております。任期が2年となっていることから、1年目に高崎市公民館連絡協議会から諮問を受け、2年目に答申をとりまとめいただくというのが通例となっております。直近では、今年の3月に、令和3・4年度の意見具申をいただいております。こちらは令和元・2年年度の答申「新しい地域づくりの拠点としての公民館のあり方について」からさらに充実、追加すべき提案をまとめたものとなっております。令和元・2年度と3・4年度を併せて68の提案をいただいた形となっております。新たに委員になられた皆さまには冊子でお配りさせていただきましたので、後ほどご覧いただければと思います。

次に3、4ページに令和3・4年度の審議会の実施状況を掲載しております。審議会は年4回開催しておりますが、令和4年度は雪で1回中止となり3回の開催となっております。今年度のスケジュールについては後ほど報告・連絡事項でご説明させていただきます。また、4ページにございますとおり、令和4年度には、意見具申の作成にあたって審議会とは別に専門委員会を3回開催しております。

5ページ以降につきましては、関係法令を抜粋して掲載しておりますので後ほどご覧ください。また、お手元に令和4年度の高崎市の各公民館で行われた事業の一覧と事業紹介が掲載されております「高崎市の公民館」という冊子をお配りさせていただきましたので、こちらも後ほどご覧ください。今年度より新たに委員となられた皆様には、前年度3月に審議会でご報告させていただきました、テ

一まごとに事業をまとめた令和4年度高崎市公民館事業実績もお配りさせていただきましたので、こちらをあわせて後ほどご覧いただきますようお願いいたします。

説明は以上です、よろしく願いいたします。

会長： ありがとうございます。ただいま事務局から説明がありました。今までの審議会の答申テーマや審議会の概要について説明がありました。これにつきまして、何かご質問、ご意見ございましたらお願いします。

なければ次に進みたいと思います。

3 下里見公民館の取組について

会長： 続いて、議事（3）下里見公民館の取組についてです。昨年度の2月に下里見公民館で審議会を開催する予定でしたが、雪のため中止となってしまいました。そのため、本日改めて下里見公民館で審議会を行うことになりました。本日は下里見公民館の中島館長さん、有阪主事さんに下里見公民館の取組についてご説明いただき、委員の皆さまから感想やご意見をいただきます。

その後、館内を見学させていただき、終了後、またこちらの会場に戻り、さらに質問や提案を出していただいて、地区公民館の活動や施設を知っていただいたうえで意見交換ができればと考えております。よろしく願いいたします。

それでは、これから下里見公民館の取組について説明をお願いいたします。

下里見公民館長： よろしく申し上げます。下里見地区は「フルーツの郷」と言われ、406号線沿いを「フルーツ街道」と呼んでいます。今はちょうど梨とプラムがおいしい時期となっています。この「フルーツの郷」にこの公民館が開館したのが平成24年4月1日です。この地区には元々、学校以外は市の公共施設はありませんでした。町内公民館があって、各町内会で活動していました。そこに平成24年に下里見公民館が開館しまして、今年で12年目になります。

私も開館からの12年間、館長をしております。今までの12年間で最初のうち何もなく順調でしたが、令和に入って新型コロナウイルス感染症でサークルが7割ほど休止したり、あるいはそのまま活動が止まっているサークルもあります。コロナの前は公民館利用者が年間15,000人くらいいました。それがコロナになって一気に6,000～7,000人くらいになってしまいました。そこで行ったのが他の団体との協同活動です。まずは地域にあるさわらび幼稚園、下里見小学校、榛名中学校、榛名高校の活動を紹介する掲示板を作りました。事務室の前にある「地域ホットスクール情報」です。

また、下里見小学校が放課後に行っている学習支援「カワセミの会」というの

があって、公民館でも利用者に対してボランティアの募集を行いました。月曜日と木曜日に低学年と高学年への課外授業として1時間程度、利用者の有志が小学校の事業に協力しています。中学校は写真や色々な情報を持って来てくれたりしています。榛名高校は3年前から公民館での職業体験として2~3人の生徒さんが来てくれています。

地域の団体について、2つ、3つお話させていただきます。ここから歩いて数分のところに郷見神社というところがあります。その郷見神社の総代から神社で奉納大会を行いたいという話がありました。そこで公民館も協賛して奉納大会を神社で行いまして、40人くらい集まりました。

榛名スポーツ連盟というところがあります。以前は体育協会と言っていたのですが、そちらに頼まれて3年前から公民館のスポーツ吹き矢サークルを講師にスポーツ吹き矢の講習を行っています。4回の講習を行った後、12月初めに大会を開催しています。下里見地区にグラウンドゴルフ協会というところがありまして、数年前からその協会と協同しています。去年は講習を1回してその後、「公民館杯」ということで大会を行い、35人~40人くらい参加しました。

また、去年から公民館でボランティアのグループを作りました。「チョイ to 助け隊」という名前で、公民館行事のお手伝いや子どもの夏休み講座の補助を行っていただきました。

公民館サークル活動では、歌声広場「ほたるの里」というものがありまして、半年くらい前から第3金曜日に高崎市歌を20名くらいで練習しています。いかにも高崎市の公民館サークルという感じがします。

私の方からはサークルや団体とのことについてお話させていただきました。細かいことについては下里見公民館主事よりお願いします。ありがとうございます。

下里見公民館主事： これから当館での取り組みを紹介します。今回の発表は2月に開催する予定だった審議会に向けて、コロナ禍の中、作成した発表資料を基に行わせていただきます。また、館長の説明と重複する部分もありますが、ご容赦ください。

初めに私自身の紹介をします。私は去年の4月より下里見公民館に配属となり、それまでは7年間、保健所に勤務していました。コロナ禍・保健所というキーワードを聞きますと、逼迫というイメージが思い出されるかと思いますが、まさに当時はその通りの状況でした。昨年当初の私は日々のコロナ対応業務に忙殺されており、平常を取り戻しつつある昨今の状況は、もしかすると、永遠に来ないかもしれないとさえ感じていました。

これから発表する内容は主事歴も浅く、去年の3月までは「集わないでくださ

い。密を避けてください」と言っていた私が行うものになります。お聞き苦しい部分もあるかと存じますが、どうか暖かい目で見ていただけたら幸いです。

まず当館が管轄する下里見地区は下里見町、上大島町、中里見町の3つの町・7町内会で成り立っています。場所はこちらになります。榛名地域でも旧高崎市に一番、近い地域となっています。当館は平成24年度に開館し、今年で12年目を迎えました。設備は画面の通りで、この後、館内を案内いたします。そして、「下里見と言えば」という設備がこちらです。皆様もこの会場に入ってくる時にお気づきになられたかと思いますが、公民館建設時に出土した宮谷戸遺跡のレプリカがホール廊下に再現されています。この設備はもしかすると、公民館としては全国初かもしれません。

続いて、サークル活動です。当館の登録団体は26団体です。そして、嬉しい報告として、昨年末の主催講座「初めてのストリートダンス教室」の有志で結成されるダンスサークル「スペシャルフィーリング」が今年の1月に立ち上がり、現在、月2回、活動を行っています。普段、公民館とは関わりが少ない現役世代の親子が主体となって、サークルが立ち上がったことは、とても意味があることかと考えています。

それでは本題に入ります。紹介はこれまでの歴史、流れを踏まえた当館独自の5つの取り組み「下里見ならではの取り組み」。そして、ふと思い立った時に行きたくなるような公民館を目指し、私がこの1年の試行錯誤の末、実施している2つの取り組み「そうだ 下里見、行こう」な取り組みの順に行いたいと思います。

まず、1つ目の「下里見ならではの取り組み」、「ならではの①」です。こちらの写真をご覧ください。これは旅する蝶「アサギマダラ」です。アサギマダラは季節により、長距離移動をする日本で唯一の渡り蝶です。北は東北、南は台湾を拠点とし、春は北上し、秋は南下します。大人気アニメ「鬼滅の刃」に登場する蝶のモチーフになったことでも話題になりました。そして、当館には平成30年度に発足した「アサギマダラの会」というサークルがあります。このサークルは、榛名地域がアサギマダラの飛来地であることから運営推進委員からの提案があり、公民館の飛来地化及び観察会の実施を目指し、有志で結成されました。発足後、蝶が好む植物「フジバカマ」を公民館の南側に植え、メンバーが草むしり等の手入れを行いました。また、学習会の実施や飛来地化に既に成功している中之条町の山の上庭園の視察も行いました。先ほどのアサギマダラの写真は、その視察の際に撮影されたものです。その結果、現在、フジバカマは毎年、秋にかけて花を咲かせるようになっていきます。後は蝶の飛来を待つのみです。今年こそは、このような光景が見られることを期待しております。

続いて「ならではの②」です。当館では令和元年度よりはるなグラウンドゴルフ協会と連携して、初心者向けの「グラウンドゴルフ体験教室」を実施しています。

昨年度も10月に実施したところ、定員の2倍を超える33名の参加がありました。そして、12月には初めての試みとして、教室参加者を中心に、大会出場経験の少ない方を対象とした「初心者グラウンドゴルフ大会～目指せ！下里見公民館杯！～」を開催し、大会終了後には参加者20名がはるなグラウンドゴルフ協会に加入しました。協会の方からは会員が最近、少なくなってきたとの話を聞いていただけない、公民館事業が協会の活性化に貢献できたことは大きな成果があったと考えています。

続いて、「ならでは③」です。まず当館の立地をご覧ください。当館は下里見小学校、下里見放課後児童クラブ、さわらび幼稚園がほぼ同一敷地内にあります。市内の公民館でも希少な恵まれた環境です。その立地を生かして、令和3年度より始めた試みが「地域ホットスクール情報」コーナーです。このコーナーでは、先ほどの施設に加え、榛名地域の榛名中学、榛名高校の活動を公民館来館者等に紹介しています。来館者の中には、これらの学校の卒業生という方も多く、まさに昔を懐かしんで心が「ほっ」とし、かつ「ホット」な最新情報を、施設側から提供してもらい、展示しています。

また、小学校と高校との結びつきは特別なものがあります。小学校とは持久走大会の際、コースとして公民館の駐車場を通過していたり、小学校2年生が毎年、公民館の見学に訪れたりしています。持久走大会の日には公民館職員や利用者が生徒を応援する光景は下里見ならではかと感じています。また、高校とは令和3年度より職業体験実習を受け入れております。昨年度は若い力を存分に利用させていただき、敷地内の庭木剪定を手伝ってもらいました。また、他館で実施する講座の中から高校生が興味を持った講座を選んでもらい、体験をしました。写真は城址公民館での「篆刻教室」の体験風景ですが、このことがきっかけとなり、当館でも昨年度、「篆刻教室」を初開催したところ、とても好評でした。職業体験実習は公民館としても若い考えが聞ける良い機会となっています。

続いて「ならでは④」です。「下里見チョイ to 助け隊」。通称「お助け隊」です。

「お助け隊」は私が昨年度の公民館課題研究会に参加し、その活動の中から生まれた公民館ボランティアチームです。「公民館と住民・地域との新たな関係づくり」というテーマのもと、経験の浅い新人主事が地域の特性を踏まえて、検討した結果、地域づくり協議会等との外部団体ではなく、一番身近な存在である利用者等との新たな関係づくりにたどりつきました。

お助け隊は、昨年10月に初回ミーティングを行い、12月の「初心者グラウンドゴルフ大会」で初めて活動を行いました。今後は定期的に茶話会を実施し、雑談の中から事業企画時の新たな視点、アドバイスを貰うと共に、夏休み子ども向け講座のような人手が必要な講座の運営補助をお願いしたいと考えています。

「お助け隊」の名前には公民館を助けたいというメンバー目線の意味、そして、肩肘張らずに、ちょっとでも良いから助けてもらいたいという公民館目線の意味を込めました。その名前を象徴するかのように館長からメンバーに伝えられた活動テーマがこちらです。「気楽に」「楽しく」「手伝える時に」。ちなみに初陣のグラウンドゴルフ大会においてもメンバーは大会に参加し、ゲームを楽しんだ後の表彰式でのお手伝いであることを申し添えておきます。

「ならでは」最後の取り組みは、地域人材の活用です。当館は、以前より地域人材を活用した講座に力を入れていました。今回、その中で私が紹介するのは「伝統工芸師によるものづくり教室」です。伝統工芸というと、特に若い人には馴染みが持てない分野かと思います。また、公民館に来館する主な利用層においても同様の傾向が見られ、過去に実施した伝統工芸系のものづくり教室も集まりが悪い時がありました。実は私もお恥ずかしい話、馴染めない1人だったのですが、「和楽（わらく）」という雑誌のある記事に出会い、その素晴らしさを、もっと地域に知ってもらいたいと思うようになりました。これがその記事です。地域内の伝統工芸工房「大公人形」が取り上げられた記事ですが、ここに掲載された木目込み人形のシルクぐんまちゃんに衝撃を受けました。そして、ぜひ、この魅力を発信したいと思い、講師に相談したところ、販売権等の問題から全く同じものでの実現は叶いませんでしたが、工房が既に県の許諾を取っている画面の「ぐんまちゃん人形」で昨年度、教室を開催することができました。この教室は、地域だけでなく、県の魅力を再発信できるとともに、伝統と現代のコラボレーションを体感できる内容となっており、参加者はもちろん、参加できなかった利用者からも大変、好評でした。また、講師からは悪戦苦闘しながら作り出した「ぐんまちゃん人形」がもう一度、日の目を見ることができ、嬉しいとの言葉をいただきました。

ここからは「そうだ 下里見、行こう」な取り組みを紹介します。「そうだ①」は主催講座のシリーズ化です。シリーズ化と言うと、参加者に飽きられる等のマイナスイメージが多いかと思いますが、昨年度3年ぶりに実施した主催講座「うごキッズ教室」が定番化を考えるきっかけとなりました。「うごキッズ教室」は小学生向けの運動教室として、1～3年生向けの低学年クラス、4～6年生向けの高学年クラスの2部制で実施しています。昨年度は夏休みに全4回で実施する予定でしたが、講師の都合で2回、中止となってしまったため、子ども達の要望に応え、冬休みに「リターンズ」として2回を実施しました。この夏と冬の参加者の状況を見ると、低学年クラスは定員近くまでの参加があったのに対して、高学年クラスは少人数での実施となりました。また、高崎駅周辺等の地域外からの申込もあり、継続開催を望む声も出ています。そこでシリーズ化を行い、低学年の時から公民館の楽しさを体感してもらい、大きくなっても公民館に継続して来て

もらえるようにしたいです。そして「下里見と言え、うごキッズ」というような定着化が進めば、少し遠いけど、慣れている下里見に行こうという方が増え、その常連がまた人を呼ぶという良い循環が生まれるのではないかと考えています。

シリーズ化をしたい講座は先ほど、説明した「うごキッズ教室」で、今年度は長期休み毎に開催を検討しています。続いて、「みんなで木工教室」。来年の干支の木のおもちゃを作成しており、親子で楽しむ姿が印象的でした。講師も子ども達とワイワイ楽しめて、元気を貰えたとは好評でした。そして、「トップスタイリストが教えるマスクストラップ作り」。雑誌等で活躍するスタイリストを講師として招き、手芸系のものづくり講座としてシリーズ化を検討します。ちなみに「木工教室」「ものづくり講座」は昨年度、市内で初めて開催した講座になります。

続いて、最後の取り組み「そうだ②」「公民館だよりの工夫」です。まず、地域住民は市の回覧物に対して、どのようなイメージを持っているのでしょうか。私感が少し入っていますが、「毎年、同じ内容」「枚数が多くて、見る気がしない」などの決してプラスではないイメージが先行しがちになるような気がします。でも、公民館で行う業務はこのイメージとは違い、地域住民のために面白い学びの機会を提供しようとしています。そこで、そのことをもっと多くの人に知ってもらいたい。さらにはやっぱり、楽しく伝えたいと考え、私は「他の回覧物との差別化」「枚数の多い回覧でも公民館だよりにだけじゃなくじっくり楽しんで見てもらえる回覧」を心掛けたいと考えています。

これは毎月、発行している公民館だよりで、1つ目の試みは、講座名のサブタイトルの工夫です。講座の記事を掲載する際、内容を端的に表す少し砕けた言い回しのサブタイトルを必ず付けるようしています。例えば、トップスタイリストが教えるマスクストラップ作りでは「マスクの悩みをオシャレに解消します」やウクレレハワイアンリトミック教室では「癒しの音色に合わせて親子でリフレッシュしよう」などです。講座の詳細を見るきっかけづくりになればと考えています。

2つ目の試みは主事の連載コラム「新米公民館主事の奮闘記」を昨年の4月より開始しました。このコラムでは公民館での出来事や講座を開催するまでの経緯や思い等を私の所感を交えて紹介しています。不定期で掲載し、良くも悪くも主事の人柄が見えるようなコーナーを目指しています。

続いて、こちらは夏休み等の長期休暇時に行う子ども向け講座を広報する号外です。下里見小学校の全校生徒に配布しています。若い世代の目に留まりやすいよう遊び心のある号外を目指し、書式は私の直属の上司である久留馬公民館の次長のアイデアを拝借しました。ちなみにA3サイズを折って、A4サイズで配布しますが、折るとイラストとメッセージが出てくる仕掛けになっています。皆

様のお手元には夏休みの号外が配布されていますが、夏と冬でイラストとメッセージを関連づけたことも遊び心の1つとなっています。ぜひ画面と資料を見比べてみてください。

以上で、長くなりましたが、私からの当館での取り組み発表を終了いたします。ご清聴いただき、ありがとうございました。

会長： ありがとうございます。下里見公民館の取り組みについて、お話していただきました。意見ができにくいかもしれませんが、私を感じたことを少しお話させていただきます。

発想が豊かなであるとともに、わくわくして、とても面白い取り組みだなと感じました。また色々と工夫しながら行っていると思いました。

では、みなさまからのご質問やご意見がありましたら、お願いします。

学識経験者 B： 今、主事さんのお話を伺っていて、公民館主事の経験が本当にまだ1年なのかな、と思いました。私も公民館主事をしておりましたが、あんなに滑らかに奥行きのある話はできなかったです。本当は10年位経験があるのかなという感想を持ちました。館長さんも長年にわたりアサギマダラを追っているのですね。アサギマダラの公民館という印象があります。

確か下里見地区は南総里見八犬伝の里見氏の発祥の地だと思います。また新田義貞の生まれたところですから近くには里見城跡があります。そういった歴史的なことについても公民館で取り組んでいるのでしょうか。

下里見公民館長： 以前、遺跡めぐりのツアーをしたことがあります。また、里見家の関係で「里見家を守る会」というのがあって、公民館を使って講座を行っています。そういったことについても取り組んでいます。

会長： ありがとうございます。歴史的財産に目をつけ、今までも取り組んできましたし、これからもそこを掘り起こすことでさらなる発展があるのかなと思いました。

観光ガイドの会選出委員： 公民館だよりの「新米公民館主事の奮闘記」ですが、手元に配っていただいたのは昨年度の12月号ですが、その後はいかがですか。2年目となりますが。

下里見公民館主事： 「新米公民館主事の奮闘記」ですが、2年目でも新米の心を忘れずに続けております。ちなみに9月1日号の「新米公民館主事の奮闘記」は結構

頑張りましたので、発行を楽しみにしていただけるとありがたいです。

観光ガイドの会選出委員： 公民館だよりの見開き形式の号外は、今年の夏も同じような形式だったのでしょいか。

下里見公民館主事： 今年の夏の号外は、また違うフレーズを使って発行しました。「キミはまだコウミンカンを知らない。このナツも公民館はアツい！」というようなフレーズを使っています。

会長： それではこれから館内を見学したいと思います。見学後、また感じたことがあれば意見交換の機会も設けますので、その時にお話しいただければと思います。

【館内視察】

会長： 館内見学はいかがだったでしょうか。ここで改めて皆さまから今日の館内見学も含めて、意見や感想がありましたらお願いします。

観光ガイドの会選出委員： 見学の際に遺跡のレプリカを見させていただきましたが、もう少し説明があると初めて来た人でも分かりやすいのかなと思いました。

下里見公民館長： 壁のところに遺跡の説明はあるのですが、小さいので、分かりにくいかもしれません。

観光ガイドの会選出委員： もう少し読みやすいところにあるとありがたいかなと思いました。

公募委員 A： 下里見公民館に初めて来ました。色々なことを工夫されているなと感じました。お話の中で「カワセミの会」というのがあって、下里見小学校でボランティアをされているということですが、具体的にはどのような活動をされているのでしょうか。

下里見公民館長： 低学年と高学年の授業が終わった後に1時間程度、地域の人が勉強を教える小学校が主催する課外授業に協力しています。最初にあいさつをして、プリントを配って算数を中心に行っています。その後、学年ごとに分かれて、ボランティアの人がまる付けをします。間違えたらやり直ししたりしますので、私も含めて5人くらいいないと間に合いません。1学期は19回、2学期も19回あ

り、年間で言うと 56 回～60 回、行っています。ボランティアの集まりが悪かったため、小学校からの依頼を受けて公民館サークルの人を中心に募集しました。公募の人も含めて、現在 10 名で回しています。1 学期の始めの頃はぎくしゃくしていましたが、1 学期の終わりには仲良くなって、大変な面もありますが、子どもと過ごすということは楽しい面もあります。

会長： ありがとうございます。年間 60 回程度、放課後学習支援を行っているということでした。

公募委員 A：色々公民館事業や講座を行っていますが、平均で何歳ぐらいの方が来られるのでしょうか。

下里見公民館主事： 私が 1 年ちょっといる中での印象ですが、講座の実施日は平日の昼間が多いので、必然的に多くなっていくのが仕事をリタイヤされた世代の方がメインになってきます。

ただ、私が今やっている中で感じるのは、講座を色々行っているとたまに若い世代の方が参加してくれたりするので、いかに普段、公民館に来ないような世代の方を呼べるような魅力的な講座をできるかということを目指して頑張りたいなと思っております。

公募委員 B： 図書について興味があったので図書室を良く見させていただいたのですが、他の公民館より蔵書が少ないのかなと感じました。公民館によって違うのかもしれませんが、子どもが読むような本が少ないかなと思いました。子どもの利用が少ないのでしょうか。

下里見公民館長： 図書については図書ボランティアさんがいまして、本の購入等については図書ボランティアに任せています。本の寄贈については受付けていません。

子どもの利用は、学校がすぐ隣にありますので、学校が早く終わる日や長期休暇の午後になると図書室に集まっている光景を目にします。月に 1 回、子ども向けの読み聞かせを図書ボランティアが行っています。図書の数はすこし少ないかもしれません。

会長： ありがとうございます。他にございますか。

ないようですので、協議につきましては終わりにしたいと思います。議事は以上となりますので、議長の座を降ろさせていただきます。事務局にお任せします。

報告・連絡事項

事務局： 令和5年度高崎市公民館運営審議会日程について

閉会

事務局： 以上をもちまして、第1回公民館運営審議会を終了させていただきます。ありがとうございました。